

## 29 モンゴル国における子どものこころの診療を行うことの出来る医師の養成

国立大学法人 東海国立大学機構 名古屋大学 心の発達支援研究実践センター

**事業名: モンゴル国における子どものこころの診療を行うことの出来る医師の養成****実施主体: 国立大学法人 東海国立大学機構 名古屋大学****心の発達支援研究実践センター****対象国: モンゴル国****対象医療技術等:** ①医療技術: 児童精神医学・医療診療技術 / 医療機器: 田中ビネー知能検査の普及・人材養成 ③医療制度: 子どものこころ専門医制度の構築**事業の背景**

モンゴル国は人口約350万人であるが国土は広く、首都以外は人口がまばらで医療を受ける上での困難が認められている。子どものこころの診療を担う精神科および小児科は、モンゴル国では約120名および約220名の医師が存在しているが、そのうち子どものこころの診療を行っている医療機関は国立精神病院のみであり、担当医は3名であった(本事業開始前)。WHOによると10～19歳の7人に1人が精神障害を経験するとされており、近年世界的にニーズが急増している神経発達症への診療体制の確立も喫緊の課題である。医師だけではなく心理職や特別支援に携わる専門職も少なく、十分な対応が行えていない。評価ツールや診療スキルなどのソフト面も未整備な点が多い。同国での実態調査は行われていないが診療体制の充実の必要性は非常に高いと考えられる。

本事業は、モンゴル国唯一の公的な医師養成機関であるモンゴル国立医科大学精神科および小児科より、子どものこころの診療の専門医養成を行うことへの協力を求められて、同国の正式な専門医研修として実施している。

**事業の目的**

モンゴル国における子どものこころの診療を行うことのできる医師の養成を目的とする。

そのために、同国で行う専門医研修と連動して、①児童精神医学の基礎研修、②子どものこころの専門医を目指す医師への応用研修、③専門医の技量向上を目指した専門医研修の各カリキュラムを開発し、モンゴル国の専門家が自ら各研修カリキュラムを実施できるように指導することで、継続的な専門医の養成制度を構築する。加えて、子どものこころの支援に必要な田中ビネー知能検査の普及を図る。

「モンゴル国における子どものこころの診療を行うことの出来る医師の養成」について、発表をさせていただきます。

まず、事業の背景について説明いたします。モンゴル国は人口約350万人ですが国土は日本の約4倍と広く、人口の半分は首都ウランバートルに集中しています。そのため首都以外は人口がまばらで医療を受ける上での困難が認められています。子どものこころの診療を担う精神科および小児科には、モンゴル国では精神科医約120名および小児科医約220名が存在していますが、そのうち子どものこころの診療を行っている医療機関は国立精神病院のみで、担当医は本事業の開始時点で3名でした。WHOによると10～19歳の7人に1人が精神障害を経験するとされており、近年、世界的にニーズが急増している神経発達症への診療体制の確立も喫緊の課題ですが、対応できる専門医がほとんどいません。医師だけではなく心理職や特別支援に携わる専門職も少なく、十分な対応を行うことは困難です。子どものこころの評価を行うツールや診療スキルなどのソフト面も未整備な点が多い現状があります。同国での診療ニーズについての実態調査は行われていませんが、診療体制の充実の必要性は非常に高いと考えられます。

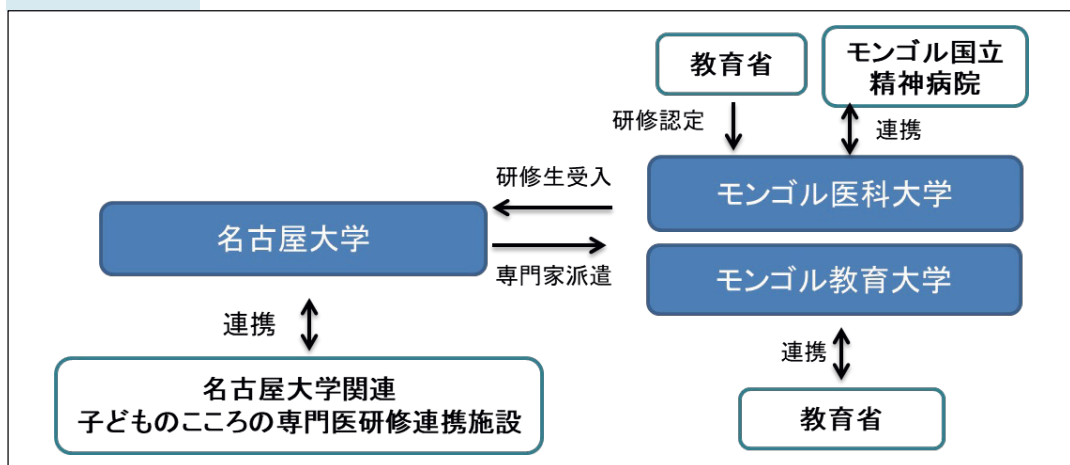
本事業は、モンゴル国唯一の公的な医師養成機関であるモンゴル国立医科大学精神科および小児科より、子どものこころの診療の専門医養成を行うことへの協力を求められて、同国の正式な専門医研修として実施しています。

次に、事業の目的です。本事業は、モンゴル国における子どものこころの診療を行うことのできる医師の養成を目的として行っています。同国で行う専門医研修と連動して、①児童精神医学の基礎研修、②子どものこころの専門医を目指す医師への応用研修、③専門医の技量向上を目指した専門医研修の各カリキュラムを開発し、モンゴル国の専門家が自ら各研修カリキュラムを実施できるように指導することで、継続的な専門医の養成制度を構築します。加えて、子どものこころの支援に必要な評価ツールである田中ビネー知能検査の普及を図ります。

## 29 モンゴル国における子どものこころの診療を行うことの出来る医師の養成

国立大学法人 東海国立大学機構 名古屋大学 心の発達支援研究実践センター

## 実施体制



## 研修目標

対象者は、モンゴル国における子どものこころの診療を行うことを希望する精神科または小児科医師であり、モンゴル医科大学精神科・小児科が対象機関である。本研修は、モンゴル国において正式に承認された6カ月間の子どものこころの専門医研修の一環として行われる。研修内容は、子どものこころの診療に必要な診断技術、治療、多職種連携による多面的な支援方法などの児童精神医学・医療の必須事項である。専門医研修は、現地で行う児童精神医学に関する系統講義と、本邦で行う専門医療機関視察や症例検討等による実践応用研修から構成される。更に、専門医研修修了者への研修を行う。加えて、医療との連携が不可欠となってくる心理職や特別支援関連教員も研修対象として、子どものこころに関する研修や子どものこころの支援に必要な田中ビネー知能検査モンゴル版に関する研修を行う。

実施体制は図の通りです。日本側は、名古屋大学の心の発達支援研究実践センターおよび親と子どもの心療科が主体となって実施します。心の発達支援研究実践センターは心理職養成機関であり、同センター内の発達障害児支援プロジェクトに在籍する児童精神科医および臨床心理士が運営の中心となります。親と子どもの心療科は、国立大学としては日本で初めて設置された児童精神科専門施設で、我が国における子どものこころ専門医研修における研修基幹施設の一つとなっています。研修に際しては、名古屋大学関連の子どものこころの専門医研修連携施設（愛知県医療療育総合センター、あいち保健医療総合センター、刈谷病院、愛知県青い鳥医療療育センター等）の協力を得て実施します。

モンゴル側は、同国唯一の国立医師養成機関であるモンゴル医科大学の精神科が主体となって教育省の研修認定を受けて実施します。実施にあたり、同国の中核精神医療機関である国立精神病院が主たる研修施設として協力しています。

次に、研修目標について説明します。対象者は、モンゴル国における子どものこころの診療を行うことを希望する精神科または小児科医師で、モンゴル医科大学精神科・小児科が対象機関となります。本研修は、モンゴル国において正式に承認された6カ月間の子どものこころの専門医研修の一環として行われます。

研修内容は、子どものこころの診療に必要な診断技術、治療、多職種連携による多面的な支援方法などの児童精神医学・医療の必須事項です。専門医への研修は、現地で行う児童精神医学に関する系統講義と、本邦で行う専門医療機関視察や症例検討等による実践応用研修から構成されます。更に、専門医研修修了者への研修も実施します。加えて、医療との連携が不可欠となってくる心理職や特別支援関連教員も研修対象として、子どものこころに関する研修や子どものこころの支援に必要な田中ビネー知能検査モンゴル版に関する研修を行います。

## 29 モンゴル国における子どものこころの診療を行うことの出来る医師の養成

国立大学法人 東海国立大学機構 名古屋大学 心の発達支援研究実践センター

## 1年間の事業内容

令和7年	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
経験者 研修 (現地)				—	講師:日本人専門家3名 研修員:前年度子どものこころ専門医研修修了者10名 日程:2025年8月17日~23日 場所:バガヌール区総合病院、モンゴル教育大学					
専門医 基礎研修 (現地)	講師:日本人専門家6名 研修員:精神科専門医(子どものこころ専門医 研修研修医)12名 日程:2025年10月5日~13日 場所:モンゴル医科大学				—					
専門医 応用研修 (本邦)				講師:日本人専門家14名 研修員:精神科専門医(子どものこころ専門医 研修研修医)12名 日程:2025年12月8~21日 場所:名古屋大学、関連医療機関等				—		
普及報告 会・研修会 (現地)					講師:日本人専門家5名 研修員:医師・心理士、教員等70名 日程:2026年1月11日~16日 場所:モンゴル医科大学、モンゴル教育大学				—	
ビネー検査 研修(オン ライン)				講師:日本人専門家5名、モンゴル人専門家10名 研修員:12名(医師12名) 日程:2026年1月20~23日、2月12日 対象機関:モンゴル教育大学(オンライン)					—	—

1年間の事業内容は図の通りです。8月には、現地研修で、昨年度に専門医研修を修了した専門医に向けた研修を行いました。

10月から3月にかけて、モンゴル医科大学が主体となった子どものこころ専門医研修が行われました。この研修には、今年度は子どものこころの専門医を目指す、モンゴル国の精神科専門医12名が参加しました。日本側専門家は、同専門医研修に対して、基礎研修・応用実践研修からなる2段階での研修を行いました。

10月には、現地を訪問して、基礎研修として児童精神医学・医療に関する系統講義を行いました。系統講義では、ICD-11に基づいて児童精神医学領域の疾患・障害に関する疾患概念、診断、治療等について包括的な講義を行いました。本講義は、専門医研修専攻医12名の他にも参加を希望する医師の参加も認めて、子どものこころの診療に関する知見が広がることを目指しました。

12月には、専門医研修専攻医12名に対して本邦にて応用実践研修を行いました。本邦研修では、児童精神医学・医療、教育、子どもの支援関連施設の視察、診断・他職種連携などに関する応用講義、実際の症例を日本の医師も加わって検討する症例検討などを行いました。

今年度は最終年度ということもあり、本事業の内容の広報と普及を目的とした報告会を実施しました。報告会は、子どものこころ専門医研修に関する研修と、田中ビネー知能検査モンゴル版に関する研修の双方を現地で実施しました。

加えて、子どものこころの診療に必要な不可欠な知能検査として開発されたモンゴル版の田中ビネー知能検査の普及のために、検査者養成研修会をオンラインで実施しました。12名の参加者があり、全員が研修課程を修了しました。

## 研修の流れ

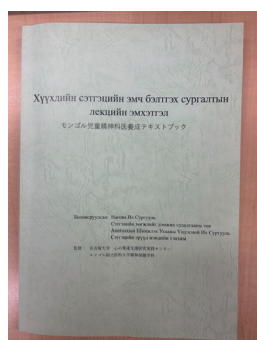
8月 経験者研修(現地)



10月 基礎研修(現地)



12月 専門医研修(本邦)



1月 報告会(現地)

1月  
ビネー  
検査  
研修  
(オンライン)

研修の流れは図の通りです。8月には、前年に専門医研修を修了した専門医10名に対する応用研修と情報交換を行いました。情報交換の中で、研修を修了した専門医が、実際の臨床の中で子どものこころの臨床を精力的に行っていることが確認できました。

今年度の専門医研修は、現地での基礎研修と本邦での専門医（応用実践）研修を実施しました。

1月に本事業の内容の広報と普及を目的とした報告会を実施しました。報告会は、子どものこころ専門医研修に関する研修と、田中ビネー知能検査モンゴル版に関する研修の双方を現地で行いました。

田中ビネー知能検査の検査者養成研修は、1月にオンラインで行いました。専門医研修を受講している医師10名も検査者養成研修を修了しました。

国立大学法人 東海国立大学機構 名古屋大学 心の発達支援研究実践センター

## 今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	①経験者研修(現地) ②基礎研修(現地) ③専門医研修(本邦) ・プレテスト・ポストテストで理解度向上(①15% ②10% ③30%) ④ビネー検査研修(オンライン) ・田中ビネー知能検査の技術習得	①経験者研修参加者が、3ケース以上の子どものこころの診療を実施。 ②専門医研修参加者が、日本で学んだ技術を活かして、3ケース以上の子どものこころの診療を実施。 ③ビネー研修参加者が学んだ手技を用いて、1ケース以上の子どもの支援を行う。	①子どものこころ専門医研修カリキュラムが、モンゴル国で専門医研修として公的に承認される。 ②モンゴル国の子どものこころの診療を行うことのできる専門医が30名増加し、専門医研修を行うことのできる医療機関を全国に展開する。 ③田中ビネー知能検査モンゴル版の新規採用・購入を促進し、一層の展開を行う。
実施後の結果	①経験者研修:10名が参加。10名で47%の理解度向上が見られた。 ②基礎研修:12名が参加。11名で12%の理解度向上が見られた。 ③専門医研修:12名が参加。7名で38%の理解度向上が見られた。 ④ビネー研修(オンライン) 12名が参加。全員が研修終了し、技術を習得した。	①経験者研修参加に参加した専門医10名全員が3ケース以上の子どものこころの診療を実施(平均延べ1,306ケース)。 ②専門医研修参加者12名全員が1ケース以上の診療を実施(平均延べ45ケース)。 ③ビネー研修参加者が、1ケース以上の子どもの支援を行った。	①子どものこころ専門医研修が、モンゴル国の専門医研修として公的に承認され、実施されている。 ②本研修により、3年間で32名の子どものこころ専門医が養成されたことで、診療機能が大きく向上した。ウランバートル以外の21の県のうち、4つの県で新たに児童精神科専門医療が可能となった。本事業の成果として、モンゴル児童青年精神医学会が設立された。 ③田中ビネー知能検査モンゴル版が、モンゴル国で公的に承認された。検査が3年間で42セットの新規購入が得られた。

今年度の成果指標とその結果を示します。

アウトプット指標では、実施前には次のような指標を設定しました。①経験者研修(現地)、②基礎研修(現地)、③専門医研修(本邦)：プレテスト・ポストテストで理解度向上(①15%、②10%、③30%)、④ビネー検査研修(オンライン)：田中ビネー知能検査の技術習得。

実施後の結果は次の通りでした。①経験者研修：10名が参加。10名で47%の理解度向上が見られた。②基礎研修：12名が参加。11名で12%の理解度向上が見られた。③専門医研修：12名が参加。7名で38%の理解度向上が見られた。④ビネー研修(オンライン)：12名が参加。全員が研修終了し、技術を習得した。

アウトカム指標では、実施前には次のような指標を設定しました。①経験者研修参加者が、3ケース以上の子どものこころの診療を実施。②専門医研修参加者が、日本で学んだ技術を活かして、3ケース以上の子どものこころの診療を実施。③ビネー研修参加者が学んだ手技を用いて、1ケース以上の子どもの支援を行う。

実施後の結果は次の通りです。①経験者研修参加に参加した専門医10名全員が、3ケース以上の子どものこころの診療を実施(平均延べ1,306ケース)。②専門医研修参加者12名全員が、1ケース以上の診療を実施(平均延べ45ケース)。③ビネー研修参加者が、1ケース以上の子どもの支援を行った。

インパクト指標では、実施前には次のような指標を設定しました。①子どものこころ専門医研修カリキュラムが、モンゴル国で専門医研修として公的に承認される。②モンゴル国の子どものこころの診療を行うことのできる専門医が30名増加し、専門医研修を行うことのできる医療機関が全国に展開する。③田中ビネー知能検査モンゴル版の新規採用・購入を促進し、一層の展開を行う。

実施後の結果は次の通りです。①子どものこころ専門医研修が、モンゴル国の専門医研修として公的に承認されて実施している。②本研修により、3年間で32名の子どものこころ専門医が養成されたことで、診療機能が大きく向上した。ウランバートル以外の21の県のうち、4つの県で新たに児童精神科専門医療が可能となった。本事業の成果として、モンゴル児童青年精神医学会が設立された。③田中ビネー知能検査モンゴル版が、モンゴル国で公的に承認された。検査は、3年間で42セットの新規購入が得られた。

## 29 モンゴル国における子どものこころの診療を行うことの出来る医師の養成

国立大学法人 東海国立大学機構 名古屋大学 心の発達支援研究実践センター

## 今年度の対象国への事業インパクト

## 医療技術・機器の国際展開における事業インパクト

- 事業で紹介・導入し、国家計画／ガイドラインに採択された医療技術の数
  - ・ 本事業で実施した子どものこころ専門医研修は、モンゴル国の正式な専門医研修として承認されている。
  - ・ 本事業で普及した田中ビネー知能検査モンゴル版は、モンゴル国における知能検査として国から承認を受けた。
- 事業で紹介・導入し、対象国の調達につながった医療機器の数
  - ・ 田中ビネー知能検査モンゴル版は、本事業実施期間内で医療機関や教育機関に42台新規購入された。

## 健康向上における事業インパクト

- 事業で育成した保健医療従事者(延べ数)
  - ・ 日本で研修(講義・実習等)を受けた研修員の合計数: 12名
  - ・ 対象国で研修(講義・実習等)を受けた研修員の合計数: 104名
  - ・ 研修(講義・実習等)を受けた研修員の合計数: 116名
  - ・ 過去に研修を受けて講師・専門家となった現地の講師・専門家の合計数: 0名
  - ・ 本研修により、3年間で32名の子どものこころ専門医が養成され、新規専門医32名により今年度計16,029名(延べ)の子どものこころの診療が行われた。

今年度の対象国への事業インパクトを示します。

まず、医療技術・機器の国際展開における事業インパクトとしては、以下のような点が挙げられます。

1. 本事業で実施した子どものこころ専門医研修は、モンゴル国の正式な専門医研修として承認されている。
2. 本事業で普及した田中ビネー知能検査モンゴル版は、モンゴル国における知能検査として国から承認を受けた。
3. 田中ビネー知能検査モンゴル版は、本事業実施期間内で医療機関や教育機関に42台新規購入された。

また、健康向上における事業インパクトとしては、以下のような実績となっています。

日本で研修(講義・実習等)を受けた研修員の合計数は12名、対象国で研修(講義・実習等)を受けた研修員の合計数は104名、研修(講義・実習等)を受けた研修員の合計数は116名、過去に研修を受けて講師・専門家となった現地の講師・専門家の合計数は0名でした。

本研修により、3年間で32名の子どものこころ専門医が養成され、新規専門医32名により今年度計16,029名(延べ)の子どものこころの診療が行われました。

### これまでの成果

1. 子どものこころ専門医研修カリキュラムがモンゴル国で専門医研修として公的に承認されて3年間実施された。今後も継続して実施される予定である。
2. 本研修の技術によって3年間で32名の児童精神科医が養成され、モンゴル国の子どものこころの診療機能が向上した。同国内で必要最低限の子どものこころ専門医は30名程度とされていたが、本事業により達成された。関連して、モンゴル児童青年精神医学会が設立された。
3. 田中ビネー知能検査モンゴル版のモンゴル国内での普及に向けて、本事業において検査者養成研修を行い、51名の検査者が養成された。関連して、検査用具42セットが購入された。

### 今後の課題

1. 子どものこころ専門医制度が継続的にモンゴル国内で実施される見込みとなっているが、研修を行う指導医の技量向上、専門医への生涯教育を行える体制づくりが今後の課題である。このために、学会等と協働での研修やテキスト開発などを行っていく体制構築が求められている。
2. 田中ビネー知能検査モンゴル版の更なる普及のためには、専門家養成機関(大学)の卒前教育、学会や教育省などによる公的な現任者養成の一環として、検査者養成研修を組み込むことが有効である。また、実際に検査を行っている専門家向けの応用研修や生涯研修を現地の学会等との協働で行っていく体制構築が必要である。

これまでの成果については以下の点が挙げられます。

1. 子どものこころ専門医研修カリキュラムがモンゴル国で専門医研修として公的に承認され、実施されています。このことは、今後、モンゴル国で子どものこころの診療に関する専門性の確立や診療体制の整備を行う上で非常に大きな意味があると考えられます。
2. 本研修の技術によって3年間で32名の児童精神科医が養成されました。現在、子どものこころの診療を行っている医師は3名のみであることからすると、これ自体がモンゴル国の子どものこころの診療機能向上に寄与したと考えられます。同国内で必要最低限の子どものこころ専門医は30名程度とされており、本事業により達成されました。また、本事業での働きかけにより、モンゴル児童青年精神医学会が設立されました。
3. 田中ビネー知能検査モンゴル版の普及に向けて、本事業において検査者養成研修を行い、51名の検査者が養成されました。関連して、検査用具42セットが購入されました。

今後の課題は以下の点が挙げられます。

1. 子どものこころ専門医制度が継続的にモンゴル国内で実施される見込みとなっていますが、研修を行う指導医の技量向上、専門医への生涯教育を行える体制づくりが今後の課題です。このために、学会等と協働での研修やテキスト開発などを行っていく体制構築が求められます。
2. 田中ビネー知能検査モンゴル版の更なる普及のためには、専門家養成機関(大学)の卒前教育、学会や教育省などによる公的な現任者養成の一環として、検査者養成研修を組み込むことが有効であると考えられます。また、実際に検査を行っている専門家向けの応用研修や生涯研修を現地の学会等との協働で行っていく体制構築が必要です。

## 29 モンゴル国における子どものこころの診療を行うことの出来る医師の養成

国立大学法人 東海国立大学機構 名古屋大学 心の発達支援研究実践センター

## 将来の事業計画

## 子どものこころの専門医養成について

- 本事業で養成した専門医の中から指導医を養成し、モンゴル側専門家のみでの専門医研修を行うことを可能とする。
- 本案件において専門学会の設立を働きかけ、令和7年度にモンゴル児童精神医学会が設立されている。指導医への研修や学会による研修サポートを行うことで学会活動の発展を支援し、同国内での子どものこころの診療の自立的継続的な発展を目指す。

## 田中ビネー知能検査モンゴル版の普及について

- 本案件で養成した指導者による自立的な、検査者養成研修、現任者および心理職への研修を行えるよう、協働して活動を行っていく。
- 大学の卒前教育カリキュラムや公的な学校心理士研修などへの組み入れを行い、研修対象者の幅を広げる。
- 本事業での働きかけを通じて、モンゴル教育大学内に子どもの発達支援センターが設立されている。同センターを拠点として、検査者養成、検査の普及、子どもの支援に関わる専門家(教員、心理職等)の技量向上のための研修、情報発信等を行っていく。

最後に、将来の事業計画について示します。

モンゴル国における子どものこころ専門医制度の確立を進めていきたいと考えています。そのためには、本事業で養成した専門医の中から指導医を養成し、モンゴル側専門家のみでの専門医研修を行うことを可能とすることが必要であると考えます。本案件において専門学会の設立を働きかけてきましたが、令和7年度にモンゴル児童精神医学会が設立されています。指導医への研修や学会による研修サポートを行う中で学会活動の発展を支援し、同国内での子どものこころの診療の自立的継続的な発展を目指していきます。

田中ビネー知能検査モンゴル版の普及に関しては、以下の事業を行う予定です。

本案件で養成した指導者による自立的な、検査者養成研修、現任者および心理職への研修を行えるよう、協働して活動を行っていきます。

大学の卒前教育カリキュラムや公的な学校心理士研修などへの組み入れを行い、研修対象者の幅を広げていきます。

本事業での働きかけを通じて、モンゴル教育大学内に子どもの発達支援センターが設立されています。同センターを拠点として、検査者養成、検査の普及、子どもの支援に関わる専門家(教員、心理職等)の技量向上のための研修、情報発信等を行っていきます。